

## 学術会議問題巡り 江田元法相ら議論 岡山で公開講座

朝日新聞デジタル 2020年12月7日 9時30分



県内の地方議員でつくる「立憲主義と地方自治を守る議員の会」が6日、日本学術会議の任命拒否問題を考える公開講座を岡山市北区で開いた。「任命拒否の本質～自治体議員として 市民として」と題し、江田五月・元法相ら識

者3人が基調講演。「任命拒否は学術会議の芯を抜く行為。負けてはならない」などと訴え、約40人の参加者は熱心に耳を傾けた。

日本学術会議は、科学政策に対する提言などを目的に1949年に発足した科学者組織。今年9月、会議が推薦した会員候補のうち6人の任命を菅義偉首相が拒否したことが問題になっている。

江田氏は、学術会議について「政府から独立して、学者の自由・自治を守る機関として生まれた」と説明。学問の自由は人間の根本的な権利で、守っていくことが重要だと強調した。

立田久義弁護士は、問題は地方自治や大学自治への介入にもつながりかねないと指摘。その上で「政府が日本学術会議を邪魔だと思っている」と批判した。

岡山大の吉田浩・准教授（歴史学）は、学術研究では多数決で決められないこともあるとし「多数決で選ばれた政治家が、学術会議に介入する是非は重要な論点だ」と社会的な議論を求めた。

参加した岡山市北区の農業男性（84）は「問題を通じ、学問の自由などを守らなければいけないと改めて感じた。周囲の人にも問題意識を持って欲しい」と話した。（吉川喬）